

行川さをり<sup>vocal</sup>  
 マルセロ木村<sup>guitar,vocal</sup>  
 佐藤ハチ恭彦<sup>bass,sax</sup>

2019 12月14日(土)

開場 19:30 ※night live  
 開演 20:00~

(2ステージ 入替なし 途中入場可) (1drink=600円~)

MC 3700 円+2drinks order

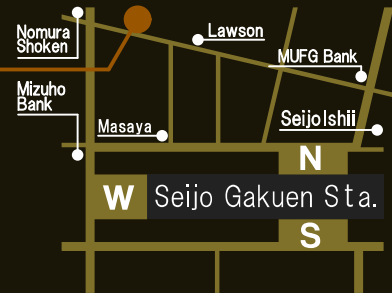
CAFE **BEULMANS**

03-3484-0047

info.cafebeulmans@gmail.com

東京都世田谷区成城6-16-5-2F

メールでのご予約の場合、  
 必ず当日ご連絡がとれる電話番号を  
 ご記載ください。



マルセロ木村

1979年ブラジル サンパウロで音楽一家に生まれ、ギタリストである祖父の影響にて幼い頃からギターに慣れ親しむ。タトゥイでMarcos DelHommo, Pacheco よりギターを師事。若干16歳にして、タトゥイの音楽学校より講師のオファーを受け指導。個人レッスンやライブハウス・ラジオ・テレビ局などでも演奏を行い、その後ショー・ロ・サンバ・ボサノヴァは勿論、ロックやジャズも同等にこなし、それらをクロスオーバーさせた独自のサウンドスタイルを展開。2009年1月にインストゥルメンタル・サンバ・ジャズ・ユニットMISO BANANAを結成し、2010年1月にアルバム『Uirapuru』リリース。サウンドメーカーとしても国内外の多くの有名アーティストより信頼を受け、サウンド提供・アレンジ・レコーディングと幅広くサポート。名古屋にMúsica&Bar Marcelo (ムジカ&バーマルセロ) をオープンさせ国内外の有名アーティスト(小野リサ、パウラ・リマなど)との素晴らしいセッションやサウンドをお届けするとともに、若手に活動の場を与え育成にも力を入れる。日々意欲的に音楽と向き合い、ソロとして世界に向け全国にて活動中。2013年10月に、ソロ名義初となるアルバム『Morro Do Urbana』をモーションブルー横浜でリリースLIVE2014年6月には、地元、名古屋ブルーノートにて「マルセロ木村CDリリースLIVE」を大成功におさめる。



行川さをり

ボーカリストDianne Reevesに影響を受けてブラジル音楽に傾倒し、JazzとBrazil音楽を歌うボーカリストとして関東中心に活動。リズムカルで個性的なシラブルのスキヤットから静寂を描く声色まで、異国情緒あふれる色合いで空間を満たすような声の特徴。独特なニュアンスでの詩の朗読や日本語の歌唱にも定評がある。最近では、笙・箏・声のアンサンブル、華や書、コンテンポラリーダンス、ライブペインティング等とのコラボレーションによる空間表現など、活動の場を広げている。

【Work】  
 ・CD  
 2010/12月1stCD 『Se pudesse entrar na sua vida』  
 2013/3月2ndCD 『Fading Time』  
 2015/12月3rdCD 『-scapes,』 ※  
 ※phacoscape (ファコスケイプ: ピアノ伊藤志宏・クラリネット土井徳浩とのトリオ) 名義でリリース  
 ・TVCMでの歌唱やコンビレーションアルバムへの参加など  
 CM: NTT/docomo/JR東海/資生堂/シャディー/西友/アーバンリサーチ.etc  
<http://namekawasawori.com/>



佐藤ハチ恭彦

1968年11月26日に誕生。群馬県高崎市出身。一日中FMラジオから音楽が流れる家庭に育ち、五歳からのピアノを皮切りに、(幸か不幸か、このおかげで絶対音感を得る) ギター、サックス等様々な楽器と音楽に親しむ。高崎高校在学中は、アルトサックス、ピアノ、エレクトリックベースと、三つの楽器を並行して演奏する。早稲田大学入学を機に、ウッドベースを本格的に弾きはじめ、在学中よりプロとして活動する。'97年には、ダスコ・ゴイコビッチ (tp) のツアーに参加し二枚のCDを録音。その他、デビッド・マシューズ (pf)、エリック・アレキサンダー (ts)、クリス・ポッター (sax) らの海外ミュージシャンとも共演。TOKU (flh, vo) のレギュラーバンドのベーシストとして約5年間活躍。ユキ・アリマサ (pf) トリオでの活動も5年を超える。音楽の楽しさ、美しさ、そして『自由』の素晴らしさを伝える事の出来るプレイヤーとして、多方面で高い評価を得ている。また、サクソフォン奏者としての活動も、密かに続けている…。